

そう思ってる人 →
は、手をあげて!

- ・日本は農産物の輸入関税が高い。
- ・日本の農業は「過保護」である。

小さな記事の大きな矛盾

上の設問に、まじめに新聞などを
読んでいる人ほど拳手する人は多い
んじゃないかなあ。そんな論調をマ
スコミは垂れ流してきています。

さて、さる12日の「朝日新聞」で
“日本の農業問題”なる大仰な見
出しの小さな記事が目にとまりました。
その紙面の切り抜きを下に転載
しました。それによると、

“日本の農作物平均関税率は約12
%であるのに対してスイス51%、
タイ35%、EU20%・・・”

“補助金など・・・欧米の国内保
護額は日本の数倍”

などと紹介したうえで、

“つまり関税と農業の国内保護が
他国より低いことが、食料自給率
の低下をもたらしている”

と、説明しています。おいおい、
いったい今まで何度となく報じてき
た「過保護」論はどこへいったの？
自分たちの虚報もしくは誤報を反省
してるの？ と、聞き返したくなる

「正確」な考察にまず驚かされます。

ところが結論では、解明したはず
の原因、つまり「政治の責任」はさ
らりと絵空事に流して、食料自給率
を高める方策を、農家と消費者の努
力だけに矮小化してしまっています。

書いている記者本人も、見通しが
立たないことに気づいてか、

“・・・にアピールし、消費者と
生産者の一体感を醸成することな

日経スペシャル
ガイの夜明け
Tuesday 22:00 On Air
闘い続ける人たちの物語
案内人：役所広司 ナレーター：盤江敬三
今回の放送予定 11月18日(木曜)
2週連続企画「ニッポンの農業を問う」
独占取材 “事故米”問題の真相

テレビ番組のお知らせです。
「農民連」の業務に支障が出るほ
どに密着して取材を続けてきたと
いう企画が、11月18日の夜10時、
いよいよ放映になります。

どであろうか。”

と、まるで自信なさげな尻切れト
ンボ。大新聞の論立てのオソマツは、
読むのも恥ずかしい自衛隊トップや
上智大学名誉教授なみのアッパパー
な作文を想起させます。



今年過去最高値をつけた穀物相場も夏以降下落傾向となり、とうもろこし、小麦などの相場は年初来の安値圏で推移している。

今年には穀物相場が大きく変動したのみならず、日本の食料問題についても大いに議論された年であった。特に40%程度と言われている日本の食料自給率の低さは注目された。食料の半分以上を輸入に依存しているのだ。

なぜここまで自給率が低下したのか。まず輸入関税の引き下げにより、国産品の国内価格競争力が低下したことが原因である。日本の農作物平均関税率は約12%であるのに対してスイス51%、タイ35%、EU20%など高い。もちろん日本にも米、乳製品、食肉などの高関税品目（他の農産物輸出国と土地の広さなど同条件で生産できない品目など）もあるが、これらは輸入品目数の中でも非常に少ない。

二つ目は農業に対する補助金などの国内保護額が、他国と比べ必ずしも高くないことである。欧米の国内保護額は日本の数倍と言われている。つまり関税と農業の国内保護が他国より低いことが、食料自給率の低下をもたらしている。

自給率の低下に伴い様々な問題が生じている。日本の農業や農村の崩壊、食の安全問題など。どうすれば自給率を上げられるのか。

問題解決は容易ではない。しかし、国内農業保護政策を見直し、日本の農業を「儲かる」事業に変える。消費者もある程度高品質や安全性の高い国産食料品を購入する意欲を持ち、食料品の内需を拡大する。また地方の特産品や都市近郊農家は新鮮でおいしい特徴的な農産物を消費者にアピールし、消費者と生産者の一体感を醸成することなどであるか。(QJ)

日本の農業問題